

令和4年度事業報告



建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に
引き出し引き伸ばし、社会に有為な
人材を養成する。

目 次

1. 法 人 全 体 . . . 1
2. 吉 備 国 際 大 学 . . . 1 7
3. 九 州 保 健 福 祉 大 学 . . . 2 6
4. 順 正 高 等 看 護 福 祉 專 門 学 校 . . . 3 3
5. 九 州 保 健 福 祉 大 学 綜 合 医 療 專 門 学 校 . . . 3 7

I. 令和4年度 学園の運営方針

本学園は、建学の理念をすべての柱として、順正学園でしかできない特色ある教育を実現するため、以下のとおり学園運営を行う。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響を考慮に入れて、状況に応じて遠隔授業を活用するなどして教育の質を担保するとともに、学生が豊かな学生生活を送ることができるようあらゆる面での学生支援を実施していく。

(1) 建学の理念の達成

今年度も「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念を実現するため、学生一人ひとりにあった、きめ細かい指導により国家試験合格率を高め、専門知識と豊かな心を持った人材を社会に輩出できるよう努める。

また、スチューデントサポートセンター、キャリアサポートセンター及びラーニングサポートセンターなどが連携して、エンロールメント・マネジメントによる支援体制を充実させ、退学者を出さない積極的な支援を行う。

特に、昨年度から取り組んでいる学修成果の可視化、学修者本位の教育への転換をさらに推進する。そのため、九州保健福祉大学では昨年度から学生のパソコン必携化を行っているが、吉備国際大学においても今年度入学生から必携化する。

(2) 学生確保の強化と18歳人口の減少を見据えた多様な学生の受け入れ

学生募集に関しては、吉備国際大学及び九州保健福祉大学のホームページを刷新し、ブランディング計画に基づいた広報活動を展開して学生募集を強化する。また、吉備国際大学では、令和5年度入学生から高梁キャンパスの全学部（社会科学部、保健医療福祉学部、心理学部、アニメーション文化学部）に通う学生全員（留学生を除く）を対象とした「高梁市順正学園特別奨学金制度」を新設し、学生確保を図る。

なお、コロナ禍における受験生への経済的支援として、昨年度に引き続き、全学的に入学検定料全額免除を行う。

さらに、18歳日本人学生に捉われず外国人留学生の獲得を目指すとともに、大学院や通信教育による社会人の受け入れも引き続き積極的に行っていく。今後も、留学生交流の推進や社会人のリカレント教育など、多様な年齢層や国籍の学生を受け入れの実現を目指していく。

(3) 地域連携の推進と外部資金の獲得

本学園は、地域と密接に関わりながら運営しており、地域の産業界や地方公共団体と連携して公開講座や連携事業を実施している。今後も地域を支える人材育成を行うとともに、地

域社会の知の拠点として、産業界や地方公共団体と積極的に連携を図っていく。併せて、高度な研究成果や地域社会への貢献を実現するために、文部科学省等の補助金やとその他の外部資金の積極的な獲得を目指す。

(4) 採算性の検証と学部学科等の再編

各学科等の学生募集状況や将来性などを分析し、学部学科編成や学生定員の見直しを行う。

(5) 法人のガバナンス強化

本学園が社会の理解と支援を得て発展し続けるために、ガバナンス強化に努めるとともに、情報公開を積極的に行うなど経営の透明性向上に努める。

(6) 財務の改善

学納金収入の減少により、経常収支は年々悪化している。今後も良好な教育環境と教育研究資金を確保していくため、また、さらなる飛躍を目指すためには経営基盤の安定が不可欠であることから、人件費を含めた支出の見直しを行い、収支の改善を図る。

(7) 学園50周年記念事業の継続

学園50周年記念事業としてボランティアセンターで実施している「デリシャスフードキッズクラブ」及び「ジョイフルキッズクラブ」の活動の一層の充実を図る。

(8) 収益事業の強化

賃貸マンション「ラ・エスペランサ」の募集強化とサービス充実により、入居者の増加を目指す。

⇒ 令和4年度は、新型コロナウイルス第7波、第8波の流行の影響はあったものの、設置校においては対面授業、学外実習、また学園祭等の学校行事を実施するなど、徐々に通常の活動に戻り、建学の理念の実現に向けて学園運営及び各設置校の教育研究活動に取り組んだ。

外国人留学生の受入れについては、入国時期の遅れはあったものの、全員を無事受入れた。国際交流活動についても、学生の海外留学や交換留学を再開した。

学修者本位の教育への転換に関しては、令和3年度に学修管理システムを導入して、各大学の教育イノベーション課を中心に学修成果に向けた取り組みを推進した。また、九州保健福祉大学に続いて吉備国際大学においても令和4年度入学生からパソコン必携化した。

各設置校のブランディングに関しては、ブランディング計画に基づいて吉備国際大学及び九州保健福祉大学のホームページを刷新し広報活動を強化している。令和5年度入学生の募集にあたり、吉備国際大学では高梁キャンパスを対象とした「高梁市・順正学園特別奨学金制度」を新設して募集活動を展開した。また、前年度に引き続きコロナ禍における受験生への経済的支援として全学的に入学検定料免除を実施した。

設置関係では、文部科学省に吉備国際大学農学部海洋水産生物学科の設置に係る設置届出が受理され、令和5年4月開設の運びとなった。

法人運営に関しては、監事監査の充実を図るなどガバナンスの強化に努めるとともに、情報公開を積極的に行い経営の透明性の確保に努めた。財務の改善に関しては、経費削減を徹底するとともに、前述の学部学科の再編や、奨学金制度新設等による募集の強化により収支改善の取り組みを推進した。

主な行事としては、吉備国際大学が日本高等教育評価機構による認証評価を受審し「評価基準に適合している」と認定された。

学園50周年記念事業については、デリシャスフードキッズクラブにおいて、企業、団体、個人から支援を受けて岡山県と宮崎県の生活困窮世帯へ食糧支援を実施しているが、今年度は特に（株）ロッテホールディングス、カバヤ食品（株）、蜂谷工業（株）、曙警備保障（株）、総社市をはじめ多大な支援を頂いた。

収益事業では、賃貸マンション「ラ・エスペランサ」の入居者が増加し、約85%入居が決まった。

教育研究分野については、各設置校の報告に記載のとおり教育研究活動を推進した。

II. 法人の概要

1. 基本情報

(令和4年5月1日現在)

主たる事業所の住所等

	住所	電話	FAX
学校法人順正学園	〒700-0022 岡山市北区岩田町2-5	086-231-3517	086-231-3518
吉備国際大学	〒716-8508 高梁市伊賀町8	0866-22-9454	0866-22-7560

吉備国際大学 南あわじ志知キャンパス	〒656-0484 南あわじ市志知佐礼尾 370-1	0799-42-4700	0799-42-4701
吉備国大学 岡山キャンパス	〒700-0931 岡山市北区奥田西町 5-5	086-207-2911	086-207-2912
順正高等看護福祉 専門学校	〒716-8508 高梁市伊賀町 8	0866-22-8065	0866-22-0566
九州保健福祉大学	〒882-8508 延岡市吉野町 1714-1	0982-23-5555	0982-23-5530
九州保健福祉大学 総合医療専門学校	〒880-0867 宮崎市瀬頭 2-1-10	0985-29-5300	0985-29-5755

設置する学校・学部・学科等

吉備国際大学	大学院	社会学研究科 保健科学研究科 心理学研究科 地域創成農学研究科 (通信制) 連合国際協力研究科 (通信制) 心理学研究科 (通信制) 保健科学研究科 (通信制) 知的財産学研究科
	社会科学部	経営社会学科 スポーツ社会学科
	保健医療福祉学部	看護学科 理学療法学科 作業療法学科 社会福祉学科
	心理学部	心理学科 子ども発達教育学科
	農学部	地域創成農学科 醸造学科
	外国語学部	外国学科
	アニメーション文化学部	アニメーション文化学科
	通信教育部	心理学部 子ども発達教育学科
		留学生別科
九州保健福祉大学	大学院	医療薬学研究科 (通信制) 社会福祉学研究科 (通信制) 保健科学研究科

社会福祉学部 臨床福祉学科
 スポーツ健康福祉学科
 保健科学部 作業療法学科
 言語聴覚療法学科
 臨床工学科
 薬学部 薬学科
 動物生命薬科学科
 生命医科学部 生命医科学科
 臨床心理学部 臨床心理学科
 通信教育部 社会福祉学部 臨床福祉学科
 臨床工学別科

順正高等看護福祉専門学校 看護専門課程 看護学科
 社会福祉専門課程 介護福祉学科

九州保健福祉大学総合医療専門学校 医療専門課程 看護学科

2. 役員の概要

理事・監事 定数 理事9～13名、監事2名 (令和4年5月1日現在)

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別
理事長	加計 勇樹	H23.5.14	常勤
専務理事	加計 美也子	S59.6.1	常勤
理事	河村 顕治	R3.4.1	常勤
理事	兒玉 修	R2.4.1	常勤
理事	中永 洋子	H6.6.1	非常勤(学外)
理事	角南 篤	H24.6.1	非常勤(学外)
理事	飛島 章	H28.6.1	非常勤(学外)
理事	黒住 宗晴	H28.6.1	非常勤(学外)
理事	川端 英男	R2.6.1	非常勤(学外)
理事	大橋 宗志	R2.6.1	非常勤(学外)
理事	佐藤 兼郎	R2.6.1	非常勤(学外)

監 事	山 崎 貴 夫	R2. 6. 1	常勤 (学外)
監 事	山 中 幸 平	H6. 6. 16	非常勤 (学外)

役員賠償責任保険契約の状況

令和2年度から私大協役員賠償責任保険制度に加入しており、令和4年度においても、理事会決議により加入する。

保険種類 役員賠償責任保険

契約者 日本私立大学協会

記名法人 学校法人順正学園

被保険者 個人被保険者 理事・監事、評議員、管理職従業員、退任役員
記名法人 学校法人順正学園

補償内容 個人被保険者に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等
記名法人に関する補償 法人内調査費用、
第三者委員会設置・活動費用等

保険期間中総支払限度額 1億円

3. 評議員の概要

評議員 定数27～32名

(令和4年5月1日現在)

氏 名	就任年月日	氏 名	就任年月日
加 計 勇 樹	H10. 6. 1	柴 田 良 一	R4. 2. 24
加 計 美也子	H27. 6. 1	清 水 光 二	H28. 6. 1
相 野 公 孝	R4. 4. 1	正 野 知 基	H29. 6. 1
井 勝 久 喜	H25. 6. 1	園 田 徹	R2. 4. 1
池 本 貞 子	S62. 6. 1	田 尾 瞳	H29. 6. 1
池 脇 信 直	H31. 4. 1	畝 伊 智 朗	H30. 4. 1
後 迫 和 子	H26. 6. 1	土 井 章	S59. 6. 1
大 原 秀 行	H26. 1. 19	内 藤 正 明	H23. 6. 1
川 本 さやこ	R2. 4. 1	中 角 祐 治	H30. 5. 29
倉 内 紀 子	H26. 6. 1	中 塚 敬	H29. 6. 1
栗 田 喜 勝	H28. 6. 1	林 原 輝 明	R2. 12. 18

黒川 昌彦	H30.4.1	森 信 繁	R2.12.18
佐藤 兼郎	R2.4.1	山本 隆一	H20.1.19
塩見 優子	H21.6.1		

4. 専任教職員

(令和4年5月1日現在)

	教員数	職員数	備考
法人本部	—	8	出向者等含む
吉備国際大学	119	51	
九州保健福祉大学	96	37	
順正高等看護福祉専門学校	10	2	
九州保健福祉大学総合医療専門学校	11	4	
合 計	236	102	

Ⅲ. 大学の概要

各設置校の入学者・学生数等の状況

単位(人)

	吉 備 国 際 大 学							九 州 保 健 福 祉 大 学				
	学部	通信 学部	大学院 博士 (後期)	大学院 博士 (前期)	通信 大学院 修士	通信 大学院 博士	留学生 別科	学部	大学院 博士	通信 学部	通信 大学院 博士 (前期)	通信 大学院 博士 (後期)
入学者	290	—	1	12	19	0	68	210	1	166	6	2
編入・再入学者	24	—	—	—	—	—	—	3	0	54	—	—
10月入学 (編入・再入学含む)	25	—	0	2	—	—	22	0	0	27	—	—
5/1 学生数	1,566	55	5	30	52	2	103	1,114	3	490		
内留学生	318	—	0	12	—	—	103	21	0	0	0	0
卒業者	379	21	—	—	—	—	—	235	—	99	—	—
修了者	—	—	1	16	26	0	77	—	0	—	13	1
退学者	81	1	0	0	0	0	0	19	0	38	0	1
満期退学者	—	—	0	—	—	0	—	—	—	—	0	1
除籍者	20	2	0	0	0	0	12	5	0	13	0	0
休学者	36	2	0	0	1	0	—	27	0	14	1	2
留年者	52	17	2	0	2	2	15	88	3	29	1	5

単位(人)

	順正高等看護福祉 専門学校	九州保健福祉大学 総合医療専門学校	合 計
入学者	—	70	845
編入学者	—	—	81
10月入学 (編入・再入学含む)	—	—	76
5/1 学生数	29	191	3,640
内留学生	9	—	463
卒業者	28	35	797
修了者	—	—	134
退学者	1	12	153
満期退学者	—	—	1
除籍者	0	0	52
休学者	0	18	101
留年者	0	17	233

IV. 各事業の概要

1. 設置関係

- (1) 吉備国際大学農学部海洋水産生物学科開設（令和 5 年 4 月）
（令和 4 年 7 月 26 日設置届出書提出）
（令和 4 年 9 月 20 日受理）
- (2) 吉備国際大学大学院（通信制）知的財産学研究科廃止（令和 5 年 3 月 29 日届出）
- (3) 吉備国際大学保健医療福祉学部社会福祉学科廃止（令和 4 年 9 月 6 日届出）
- (4) 九州保健福祉大学保健科学部言語聴覚療法学科廃止（令和 5 年 3 月 29 日届出）
- (5) 九州保健福祉大学保健科学部臨床工学科廃止（令和 5 年 3 月 29 日届出）
- (6) 順正高等看護福祉専門学校廃止
（令和 4 年 8 月 26 日廃止認可申請書提出、令和 5 年 2 月 16 日認可）
- (7) 吉備国際大学農学部醸造学科
令和 5 年度より募集停止（令和 4 年 7 月 26 日報告書提出）
- (8) 吉備国際大学、九州保健福祉大学、順正高等看護福祉専門学校、九州保健福祉大学総合医療専門学校における教育・研究の更なる充実を図る。

2. 入試広報活動の計画

◎教育力など学園の良き財産を積極的に前に出す広報を行った。

1. Web を活用した広報強化

⇒ターゲティング広告やバナー広告、また Web の DM を利用して情報を発信した。
大学独自のニュースやトピックス等を関係部署や各学科と連携し、SNS（インスタグラム等）で情報発信した。

2. 露出度のアップ

⇒テレビ CM やラジオ広告、Web 広告や主要駅でのデジタルサイネージ、ラッピングバス等で露出度を増やし、本学 HP への誘導、出願へと繋げることができた。

3. ホームページの充実

⇒ホームページに本学のブランドビジョン、大学の三つのポリシーを掲載し、情報発信した。

4. オープンキャンパスの充実

⇒コロナ禍により感染拡大防止対策を行った上で、全てのオープンキャンパスを対面型で開催した。教職員の協力の下、充実したオープンキャンパスを開催することができた。

5. 海外支局との連携強化

⇒海外支局、協定機関と連携し、オンライン説明会や見学講義を行い、本学園設置校の教育内容を広報した。

◎学生募集戦略

建学の理念を全面に打ち出し、各設置校の教育力の高さを強調した広報を行った。また、今年度もコロナ感染拡大の防止を行った上で、進学説明会やオープンキャンパス等を対面型で実施し、効率的に広報活動を行った。海外募集においても新規開拓を行ったネパール（別科生秋8名、15名）、タイ（学部生1名）からの入学者があった。

目標

◎入試

入学者選抜において、受付・入試実施・発表・入学手続きまでの入試業務を各設置校と連携し合理化を行うと共に、ミスのないようにする。

（コロナ感染拡大防止対策を行い、外国人留学生入試の国内・国外入試について、オンライン面接と対面型面接を併用し、実施することができた。9月以降の総合型について、すべて対面型で面接を実施した。また、11月以降からの学校推薦型選抜・一般選抜についても、より一層コロナ感染対策を行い、問題なく実施した）

◎広報

各設置校のブランドビジョンやタグライン、三つのポリシーについて、積極的に情報配信を行い、通学・通信制の学部・学科・研究科の定員充足率100%を目指し、募集を行う。留学生募集を強化する。以下のとおり入試・広報活動を行う。

○入学検定料の免除

（チラシを作成し、高校訪問やオープンキャンパス時に配布、HPにも掲示）

○WEB広報の強化

（「本学の認知度アップ」・「新制度・新設学科告知」・「オープンキャンパス」等を目的として、リターゲティング広告やリスティング広告を使った情報配信を行った）

○高校生対象のガイダンスへの積極的な参加（対面型）

（オンラインから対面型のガイダンスが増え、接触者数（参加者数）も増加した）

○資料請求者へのDM

（オープンキャンパスや最新情報を掲載したニュースを資料請求者へ送った）

○コロナウイルス感染対策をしたうえでのオープンキャンパス開催

(オープンキャンパスについて、コロナ感染対策をすべて対面型で開催することができた)

○オンライン個別相談会

(ホームページ上で申し込みフォームを作成し、希望があれば随時開催した)

○ホームページや大学案内等でブランドビジョンやタグライン、大学の三つのポリシーを積極的に周知

(随時、最新情報を掲示している)

○SNSを積極的に活用し、ニュースや多様な動画等の配信

(各学科から選出いただいた学生広報スタッフの協力もあり、公式Instagramの投稿が増え、学科ごとに情報発信した)

○関連校(教育提携校・高大連携校)との連携事業の強化

(「大学見学」・「出張講義」「高大接続フェア」等を実施した)

○特待生のチラシ

(2023年度特待生制度チラシを作成し、積極的に配布した)

3. ボランティアセンター

(1) 吉備国際大学・順正高等看護福祉専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズ(DFK)クラブ】

○順正DFKクラブによる食料支援

- ・R5.3月末現在、127世帯が利用中。同時期までに、順正学園が購入した食料品(計6557.26kg、計3,176,492円。前年同期～計1404.486kg、計953,552円)をはじめ、企業・団体等から寄贈された米やその他食料品(計9014.54kg、1kgあたり600円で換算～5,408,724円相当。前年同期～計17516.03kg、1kgあたり600円で換算～10,509,618円相当)などを、計延べ1,147世帯(前年同期1,262世帯)に対して、計12回、14729.3kg(前年同期～14338.6kg)を配送。
- ・月1回第3木曜の配送に合わせ、第1～2、4週にかけて、ボランティアセンターの学生スタッフをはじめ、吉備国際大学の一般学生らがボランティアとして参加。フードドライブは2回に分けて実施。1回目(高梁市内)は11/9～11/30に実施。2回目(総社市内)は2023/2/6～2/24月に実施。総社市フードドライブネットワークに加盟したことで、総社市からの協力がより一層強化された。
- ・例年、高額寄付(50,000円以上)をいただいている17企業(岡山県15企業、宮崎県2企業)に対して、理事長名の感謝状を贈呈。岡山県内の各行政機関を訪問し、現況説明とパンフレットの配布を実施。宮崎県内の行政機関にもパンフレットを郵送した。
- ・今年度は厚生労働省、農林水産省をはじめとする各種助成金・補助金(計

4,000,049 円) を受け、賛助寄付金と合わせて合計 7,639,189 円を獲得した。

②災害復興支援セクション

○災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催

- ・岡山県災害ボランティア研修会 (4/23、岡山県・岡山県社会福祉協議会と合同でオンライン開催)

○災害ボランティアセンター設置・運営訓練等の開催

- ・災害時における産官学協働に関する申し合わせ (高梁市・高梁商工会議所・順正学園の 3 者間で締結された連携協力協定に基づき 10/12、高梁市と学園との事務者協議にて協議)

③地域貢献セクション

○高梁市、地元住民等からの要請に応えたボランティア活動の実施

- ・御前神社秋季大祭 (10/9、地域の神社の秋祭りに学生スタッフらが参加)
- ・栄町商店街クリスマスマルシェ (12/4、市内商店街のマルシェに参加)
- ・川上町高山市地区とんど祭り (2023/1/15、中山間地域の祭りに参加) 等

○学生スタッフによるボランティアワークショップの開催

- ・ボランティアワークショップ (学生スタッフ発案によるワークショップ。高梁高校と合同で 2022/1/22 に開催)

○要請組織へのボランティアの派遣

- ・商店街の空き店舗を利用した「手作り遊び教室」(新型コロナウイルスの影響で未開催が続いていたが 10/16、約 2 年ぶりに再開。栄町商店街で学生スタッフが参加)

○清掃活動や小学生ら登下校時の声かけ (ももパト隊 朝のあいさつ運動)、防犯・交通安全活動等の実施

- ・朝のあいさつ運動 (毎週月曜日、ももパト隊として実施)
- ・吉備国際大学周辺のカーブミラー清掃「キュッキュ大作戦」(5/28、学友会・高梁警察署と合同で、大学周辺のカーブミラーを清掃)
- ・青少年健全育成強調月間広報活動 (7/6、11/21、高梁警察署と合同で実施)
- ・JR 備中高梁駅周辺の清掃活動 (7/11、2023/2/20)
- ・特殊詐欺防止啓発活動 (8/16、松山踊り会場にて学生作成の啓発チラシ、エコバッグ配布。10/16、高梁地域安全・安心啓発キャンペーンに参加)
- ・秋の交通安全県民運動出発式 (9/21)、交通事故ゼロの日広報活動 (9/30) 参加

④障がい学生支援セクション

○ノートテイク支援に関する業務

- ・3/22、学位授与式にて通信教育部心理学部の学生を対象に実施

○ノートテイカー養成講座の開催

- ・希望者に対して、11/11 に実施

⑤その他・活動支援

○関係機関・団体との連携

- ・県内のボランティアセンターを有する大学等が集まり 10/27、オンラインで大学ボランティアセンター連絡会を開催
- ・岡山理科大学科学ボランティアセンターとの合同ボランティア活動を 12/4、12/18 に実施
- ・5/25 県立高梁高校、9/2 県立高梁城南高校において、いずれもボランティアセンター職員と学生スタッフリーダーが、ボランティア基礎講座を実施
- ・DFK関連で、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、高梁商工会議所から寄付・寄贈をいただく
- ・全国フードバンク推進協議会、フードバンク岡山等の団体経由、または直接企業から食料品寄贈を多数受ける。高梁市・総社市とはフードドライブ開催で連携
- ・9/30、岡山県学生防犯ボランティア連絡会（おにたいじ）のオンライン研修会、2023/2/16、総会及び防犯フォーラムに参加

○学生スタッフ企画による順正学園ボランティアセンター研修合宿の開催

- ・新生向け研修交流会を 11/27、高梁市総合福祉センターで開催。新年度に加入した1年生の学生スタッフらが参加

⑥広報・啓発

○広報誌の発行

- ・新生歓迎特別号、DFKクラブ 2021 年度の活動状況報告書を発行

○学生スタッフによる YouTube チャンネル（kibi ボラチャンネル）の製作・編集

- ・随時更新中。R5.3 月現在 40 本の動画をアップ

○その他HP、facebook、Instagram、Twitter 等による情報発信（いずれも随時更新中）

○学生スタッフによる伊賀祭出店、活動紹介（11/6）

○KIBIBORA セーフティーマップ（吉備国際大学周辺の交通安全マップ）、特殊詐欺防止啓発チラシの作成（いずれも学生スタッフが企画・作成に携わり、市内各所に配布）

○学生スタッフによる高梁市行政放送（道路交通法令講習）への出演

○当センターのパネル展を 12 月～1 月にかけて、ラーニングコモンズで開催

(2) 九州保健福祉大学・九州保健福祉大学総合医療専門学校

①子ども支援セッション

【順正デリシャスフードキッズクラブ（DFK）】

引き続きフードドライブを実施する。

フードドライブ用のファイバードラムを常設し、提供品の募集を行う。

【順正ジョイフルキッズクラブ（JKC）】

今年度は19回の実施を計画している（昨年度はコロナ禍の影響により10回実施）。また、学生ボランティアや教職員ボランティアの確保など実施体制の強化を図り、継続可能な実施体制づくりを行う。

⇒ 7月2日の開講式を皮切りに、おおよそ開講することができた（8月11日のみ参加者に濃厚接触者疑いが判明したため、万が一を考慮して中止とした）。実施については、感染状況を見据えながら、感染防止対策を十分に確保したうえで取り組み、ボランティア学生および外部講師の方々の協力を得て、順調に運営することができた。

②地域貢献セクション

ボランティア要請に基づき、地域の各行事に学生を派遣する。

⇒ コロナ禍ではあるが、昨年度より若干規模と作業時間が拡大されて開催された「延岡アースデイ」ボランティア活動に約40人が参加して、環境に関する市民団体・企業・行政・地域の方々とともに活動を共にすることで地域貢献の大切さや環境意識への意識の向上を図ることができた。

また、9月に宮崎県全域を襲った台風14号の災害支援ボランティアを募ったところ、34人（うち教職員3人）が被災者宅の支援活動に取り組んだ。

③障がい学生支援セクション

障害者差別解消法に基づき、障がい学生に対する合理的配慮について対応検討する。

④災害復興支援セクション

有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施

4. 国際交流関係

A. 教育交流協定校への学生派遣

1) 短期留学(吉備国際大学のみ)

大学名	期間	人数
ハワイ大学ヒロ校	2022年8月～2022年12月	1名

1) - 1 短期研修

大学名	期間	
イタリア ボローニャ大学	2023年3月から派遣予定	未定

※新型コロナウイルス感染症の状況により中止の可能性あり

1) - 2 短期自費留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

派遣先	期間	人数
米国 ノーステキサス大学	2022年10月～2023年3月	1名
オーストラリア ウロンゴン大学	2022年8月～2022年12月	1名
オーストラリア ウロンゴン大学	2022年8月～2022年9月	1名
オーストラリア ウロンゴン大学	2022年8月～2022年10月	1名
オーストラリア ウロンゴン大学	2023年2月～2023年4月	3名
韓国 釜山外国語大学校	2022年8月	2名
カナダ EC English School トロント	2022年8月～2022年10月	2名
カナダ EC English School トロント	2023年2月～2023年4月	2名
カナダ EC English School バンクーバー	2022年8月～2022年10月	1名
マルタ EC English School マルタ	2022年8月～2022年10月	1名
米国 EC English School サンディエゴ	2023年2月～2023年4月	2名

2) 短期交換留学(吉備国際大学外国語学部のみ)

大学名	期間	人数
米国 フィンドリー大学	2022年8月～2022年12月	2名
フランス EMBA Business School	2022年9月～2022年12月	1名
カナダ オカナガンカレッジ	2022年8月～2022年12月	3名
タイ サイアム大学	2022年8月～2023年3月	1名
ベトナム ハノイ貿易大学	2022年8月～2022年12月	1名
韓国 釜山外国語大学	2022年8月～2022年12月	4名
台湾 致理科技大学	2023年2月～2023年6月	2名
台湾 実践大学	2023年2月～2023年6月	1名
台湾 国立嘉義大学	2023年2月～2023年6月	1名

B. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期留学 (吉備国際大学のみ)

大学名	期間	人数
タイ サイアム大学	2022年10月～1年間	1名

2) 短期留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大学名	期間	人数
ベトナム ハノイ貿易大学	2022年9月～半年間	1名
韓国 釜山外国語大学校	2022年9月～1年間	1名

3) オンライン留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大学名	期間	人数
アメリカ ポートランド州立大学	2022年8月22日～9月2日	4名

5. 施設設備関係 (500万円以上の事業(修繕工事を含む))

(1) 法人

- ・吉備国際大学農学部海洋水産生物学科開設施設設備一式 72,421千円(概算)
(令和5年度に実施予定)

(2) 吉備国際大学

- ・「Yショップ」設置経費 9,643千円(実施済)
- ・6号館エレベーター改修工事 41,250千円(実施済)
- ・防災監視盤・非常放送設備機能拡張工事 15,070千円(実施済)

(文部科学省防災機能等強化緊急特別推進事業:補助率1/2以内、

補助対象事業経費:14,856千円)

(3) 九州保健福祉大学

- ・1号棟EV更新工事 34,980千円(実施済)
- ・学内基幹スイッチリプレイス 10,500千円(実施済)

(文部科学省ICT活用推進事業:補助率1/2以内)

- ・幼児聴力検査装置(文部科学省教育基盤設備:補助率1/2以内) 5,190千円(実施済)

(4) 学園共通

- ・図書館システム更新 9,100千円(実施済)

(吉備大:4,276千円、九保大:4,276千円、九専門:548千円)

6. その他

- ・FC吉備国際大学Charmeへのスポンサー料(吉備国際大学) 6,000千円(実施済)

I. 令和4年度教学基本方針

令和4年度は、第二期中期目標・中期計画（4年間）の第4年度計画に従い、教育目標を「豊かな人間性と確かな実践力を育み、グローバルに活躍できるスペシャリストの養成」と定め、地域密着型総合大学として、地域に根差した人材の育成に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、拡大防止のための対策を講じつつ対面授業を実施することを基本として、学生の学修機会を確保した。一方では学生の課外活動についても徐々に制限を緩和し、伊賀祭についても前年度はオンラインで開催したが、今年度は通常通り実施することができた。こうした中で、日本高等教育評価機構の令和4年度大学機関別認証評価を受審し、『評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。』という判定を受けることができた。

本学は開学30周年を迎えた2020年に、建学の理念をより具体的に実現するべく、吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を新たに策定した。このブランドビジョンを教育目標と定め、本学の教育の特色と強みを「地域連携・地域貢献」と「国際化」として、令和5年度からの第三期中期目標・中期計画（5年間）を決定した。

- (1) 新型コロナウイルス感染症、各種の災害、交通事故、ハラスメント防止およびコンプライアンス遵守等に対する安全・危機管理対策を図った。
- (2) 国家試験合格率100%、就職率100%および退学者ゼロ達成に努め、学生目線に立った「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視して創意工夫をこらした」指導を行った。（結果についてはそれぞれの報告に掲載）
- (3) ブランディング実行委員会を通して、①在学生が大学に愛着や誇りを感じられる取組、②教職員のスタッフプライドの向上、③学外（主に高校生）に対する本学の特色のアピールの3つの活動を強化し、受験生に選ばれる大学となるように改革を推進し定員確保を目指した。
- (4) SDGs推進委員会を通して、持続可能な開発目標を達成するための本学の取組を強化した。（結果についてはそれぞれの報告に掲載）
- (5) 教学マネジメント推進委員会を通して、教育の質保証の取組を推進した。（結果についてはそれぞれの報告に掲載）
- (6) 内部質保証委員会を通して、自己点検・自己評価及び第三期中期目標・中期計画（5年間）の策定、事業計画立案等を実施して教育研究及び大学運営全般に対する自主的・自律的な内部質保証を行った。（結果についてはそれぞれの報告に掲載）
- (7) 日本高等教育評価機構の令和4年度大学機関別認証評価を受審するための自己点検評価書を6月に提出し、11月に実地調査を受け、令和5年3月に適合していると認定された。令和4年度大学機関別認証評価結果において改善を要する事項等として記載さ

れているものを反映して 2023（令和 5）年度を 1 年目とする第三期中期目標・中期計画（5 年間）を作成し、令和 5 年 3 月に評議員会の意見を聴き理事会で決定した。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) ブランドビジョンの実現

吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力」を引き伸ばす教育の実現に向けて、課題解決能力の育成、外国語教育、情報教育、キャリア教育の充実を図るために 2022 年度入学生より新たに導入された全学共通教養教育科目について、授業実施状況や科目履修者数等の検証を行い、内容の充実を図る。専門科目についても必要な見直しを行う。また、これらの特色ある新たなカリキュラムや教育内容を受験生に対してホームページなどを利用してアピールする。

⇒ 新たな全学教養教育科目については、今年度より円滑にスタートすることができた。この教育内容については、外部評価として 8 月に高梁市の教育長等に意見聴取を行い、内部質保証委員会に結果を報告するとともに、11 月の学修成果可視化部会において、各科目の履修者数及び履修率を教育イノベーション課よりデータ提供し、改善のための点検と検証を実施した。さらに本学の教育の強みとして、「地域連携・地域貢献」及び「国際化」の 2 つが示されたことから、全学でこの強みを活かした教育プログラムを策定することが決定し、プロジェクトチームを作り検討を開始した。

(2) 学修成果の可視化と教学 IR の推進

教学マネジメント推進委員会を中心として、アセスメントプランによる学修成果の可視化やルーブリック評価、ユニバーサルパスポートのリプレイスにより追加導入された学修ポートフォリオ、マイステップ機能の分析と検証を行うとともに、教育イノベーション課を中心に教学面の IR を推進し、教育改善の PDCA サイクルを実現する。

⇒ 前年度に策定したアセスメントプランに基づき、教育イノベーション課においてアンケート調査の実施、各種分析データの提供を行い、教学マネジメント推進委員会学修成果可視化実行部会で検証を行った上で内部質保証委員会への報告を行った。また、マイステップ、ルーブリック評価の実施については、同じく教学マネジメント推進委員会学修ポートフォリオ・ルーブリック評価導入推進部会において、検討した実施方法に基づき運用を開始した。マイステップは、春学期の振り返りまでを実施した学生が、全体で 93%、秋学期の振り返りまでを実施した学生は、4 月時点で 67%となっている。ルーブリック評価については、基礎演習・演習科目等で評価を実施し、併せて卒業論文科目のルーブリック評価項目とディプロマ・ポリシー

一との紐づけを行った。これにより卒業論文の評価による学修成果の数値化が図れることとなった。

(3) 安心、安全な授業運営と ICT を含む学修環境の整備

ネットワーク環境の整備やパソコンの必携化による ICT 活用能力の向上を目指すとともに、新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い、対面、オンライン授業の両方の学修指導体制を強化し、学生の学修機会の確保・保証に努める。

- ⇒ 各学期の履修登録が確定した時点で、Microsoft Teams に科目・履修者の情報を登録し、いつでもオンライン授業ができる体制を整えるなど、新型コロナウイルスの感染対策を十分に行い、対面、オンライン授業の両方の学修指導体制を強化し、学生の学修機会の確保・保証に努めた。また、今年度 1 年生から実施した BYOD（パソコン必携化）については、情報教育センターを中心に推奨スペックの検討、ネットワーク設定会の開催など支援も行き、トラブルもなく円滑にスタートすることができた。今後は、授業でのパソコンの活用状況調査、岡山・南あわじ志知キャンパスのネットワーク環境整備等を実施し、パソコンの活用推進と更なる ICT 環境の整備を目指す。

(4) 退学者対策

退学・除籍者数ゼロを目標に、入学時に個人面談を全学で実施（新入生面談ウィーク）し、授業欠席への早期対応、メンタル面での支援などを重点的に行う。また、各学科における履修指導の徹底と、教務課においては卒業要件や資格取得要件充足のチェックをし、要件を確実に満たせるよう指導する。さらに、「GPA 制度に関する規程の運用方法」に基づき、授業連続欠席者や成績不振学生をリストアップし、保護者面談など保護者と連携し、重点的対応を行うなど、吉備アプローチによる学生目線に立った懇切丁寧な学修指導により、成績不振による退学者の減少に努める。

- ⇒ 新入生面談ウィークとして、オリエンテーション時に実施した心理テストの結果等を活用して、入学時に個人面談を全学で実施した。さらに 2 週連続授業欠席データを活用した欠席者への早期対応、また 7 月には、GPA による成績不振学生について、学科ごとに保護者面談などの対応を行うなど、退学者対策を実施した。しかし、退学・除籍者数は、合計で 101 名（昨年度 88 名）と昨年度を上回る結果となった。要因としては、外国人留学生が経済的理由や学修意欲の喪失等により進路変更（就職や専門学校進学）などが相次いだこと、日本人学生についても、精神的な理由等による大学生活の不適応や成績不振、経済的理由などで、対応策を早期に検討する。

(5) 留学生の日本語対策と生活支援

留学生数が急増する状況のもと、正規授業カリキュラムにおける日本語学修の他に LSC の支援による課外対策として日本語能力試験 N2 対策講座を開設し、日本語教育体制の強化を図る。また、アジア村の留学生相談コーナーの活用により日本語教育の充

実、学修・生活全般へのサポートを強化するとともに、日本人学生との交流や学友会活動への参加などを促し、留学生課を中心に留学生の日本での学びと学生生活を全面的にサポートする。

- ⇒ ラーニングサポートセンターでは N2 対策講座を週 2 コマ開講した。参加者の増加を図るため、秋学期からは留年の恐れがある 4 年生の N2 未取得の学生に対して、全員出席するよう指導した。また、留学生同士及び日本人学生との交流を目的に、高梁キャンパスにおいて「インターナショナルフェスタ」を 2019 年以来、3 年ぶりに開催し、留学生による踊りや歌の披露、留学生、日本人学生が作る各国の料理がふるまわれ、楽しい交流の場となった。

(6) 国家試験・教員採用試験合格率のアップ

各種国家試験の合格率 100%を目指して、初年次より基礎演習等を活用した対策を開始し、一人ひとりに懇切丁寧な指導を徹底する。

教職センターを中心に各種教員免許取得に向けた指導体制の強化と、教員採用試験合格者増を目指して学生への受験情報の提供と対策講座の充実を図る。

- ⇒ 国家資格取得を目指す保健医療福祉学部の 3 学科では、1 年次の基礎演習科目において、学修習慣の定着や臨床医学を学ぶための基礎学力の修得を目的とした授業を行い、初年次から国家試験に向けた取り組みを行った。結果としては、作業療法士は合格率が 100%であったが、看護師、保健師、理学療法士は、全国平均を下回る結果となったことから。原因分析と検証を行い、国家試験対策の見直しを行う。また教職センターでは、例年通り教員採用試験対策講座を実施した。

(7) 学友会活動等の活性化

学友会、部・サークル活動や大学行事に積極的に学生が参加できるよう支援する。コロナ禍において、安全に活動するよう指導を徹底するとともに、学生が学友会活動や大学行事等に参加できる仕組みについても検討する。

- ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2 年間、中止またはオンライン等、通常開催できなかった学園祭（伊賀祭・くにうみ祭）が、3 年ぶりに対面・有観客で開催された。開催にあたっては、学生部やキャンパス事務室が学園祭実行委員会等と連携して支援を行い、各学科の企画や留学生による各国料理の模擬店、地域の方々の出店など、にぎやかに行うことができた。これまで学園祭の経験がない学生たちであったが、自らが企画し、運営に携わる貴重な経験となった。さらに、各キャンパスから相互に学生が参加し、キャンパス間での交流も深めた。

(8) 第三者認証評価への準備

第三者認証評価については、日本高等教育評価機構に対して 2022 年 6 月に書類を提出することから、内部質保証を中心に点検を行い、必要な対応を重点的に実施する。

- ⇒ 令和3年度に構築した内部質保証体制に基づき、自己点検・自己評価、アセスメントプラン、IR情報の収集を計画通り実施し、内部質保証委員会に報告した。報告された検証結果に基づき、改善を指示し実行に移す、というPDCAサイクルを回した。この新たな内部質保証体制が確立されたことにより、自己点検・自己評価や、これまで実施してきた各種アンケート調査、データ収集等の位置づけや目的が整理され、年間計画のもと、点検、評価が実施できる体制が整った。

日本高等教育評価機構による認証評価については、6月末に書類を提出し、11月に実施された実地調査を経て、3月には、評価基準に適合していると認定された。認証評価の重点項目であった内部質保証について“基準を満たしている”とされたことから、本学の内部質保証は、体制としては十分に整えられたと考える。今後はこの体制に基づき実際にPDCAサイクルを回し、教育改善を実現することに注力する。

(9) 私立大学等改革総合支援事業選定獲得に向けた準備

タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」の事業選定が受けられるよう、教養教育・専門教育カリキュラムの見直しを行い、学生に対する教育機能の強化促進を行うとともに、高等学校教育と大学教育の連携強化による高大接続改善を行う。

- ⇒ 質問項目などの変更もあり、得点としてはあまり伸びなかったが、学修成果の可視化等の体制が整えられ、実質化していくことで、来年度以降、得点の伸びも期待できる。再度、質問項目を見直し、来年度までに実現できる事項を早期に検討する。

2. 通信教育関係

- (1) 学部については、現在在籍する学生が希望する資格を取得し卒業ができるように教職員が共同で指導を行っていく。また、大学院については、更なる学生満足の向上のために、徹底した個別指導と学生が質問しやすい環境づくりを行う。なお、昨年度に引き続きweb学修支援システム、ZoomやTeamsといったオンラインを活用し、メールや電話のやり取りだけでなく積極的な学生サポートを行うとともに、スクリーングの感染対策としても活用する。

- ⇒ 学部について、前期が終わった時点で学生の卒業単位や資格単位の修得状況を集計し、学生指導に活用する目的でチューターに通知するとともに、前期の単位修得で、卒業や実習・資格に必要な単位で不足してしまった学生に対して、追加履修で救済できる学生には、追加履修できるように指導を行った。

また、学部や大学院ともにTeamsを活用し、もし新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者となった場合、ハイブリッド授業やオンライン授業で受けるようにするなど、学修ができるように対応した。

上記の対応を行った結果、学部については、退学者1名、除籍者2名、大学院については、退学者0名、除籍者0名となり、途中でドロップアウトする学生が減少し効果があった。

- (2) インターネット広告や専門誌への広告について、媒体、掲載時期など再検討を行い、幅広く PR することにより入学者増を目指す。
- ⇒ インターネット広告について、時期限定で行っていたものを、年間を通じて行っていくように変更をしている。また、雑誌広告について、大きい枠で1~2回行っていたものを、費用的に安い小さい枠に変更し、同様の金額で3~4回行うようにして、広告の掲載回数を増やして広報を行ったが、大学院の入学者増には繋がらなかった。

3. 研究関係

個々の教員及び研究組織による研究の活性化を促進する。

- (1) リサーチパーク研究発表会などによる学外との研究連携を推進する。
- ⇒ リサーチパーク研究・展示発表会は令和5年1月20日(金)に開催された。本年度は1件のポスター発表を行った。
- (2) 共同研究費を効果的に配分し、科研費獲得の情報を教員に伝えることにより、科学研究費の新規採択件数を増やす。
- ⇒ 学内共同研究費は5課題に対して配分した。科学研究費の新規採択件数は基盤研究(C)4件であり、昨年度より1件増えたが目標の8件は達成できなかった。一方、継続も含めると17件が採択されている。
- (3) 自治体・産業界・他大学等と産学官連携研究を推進する。
- ⇒ 個々の研究者は自治体あるいは産業界と共同研究あるいは受託研究を行っているが、大学としては産学官連携研究が行えていない。地域連携の分野で高梁市、高梁商工会議所と産学官連携について情報交換を行う体制が整いつつあることから、研究分野での連携も検討していく。
- (4) 大学院組織の連携強化と教育研究活動の活性化のために、附属研究所を活用し、吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催する。
- ⇒ 令和4年度も附属研究所合同シンポジウムは開催しなかった。研究所の研究成果については順正学園学術研究交流会において発表する機会を設けた。
- (5) 令和3年度に大幅改定したコンプライアンス関係規程及び研究倫理関係規程の学内周知を図る。また、コンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を実施し、コンプライアンス違反、研究倫理違反の防止を図る。
- ⇒ 6月29日(水)にコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を開催した。令和3年度に作成した「研究倫理ガイド」を全教職員及び学生に配布して各学部で研究倫理教育を行った。学生に対しては演習科目等の授業で研究倫理教育を行うことをシラバスに記載した。10月の「研究活動における不正行為防止及びコンプライアンス推進月間」中に「研究活動における不正行為防止並びに研究費の不正使用防止の推進について」学長から通達文書を発信した。
- (6) JSTの教員研究業績登録システム researchmap に全教員の教育研究業績を9月末と3月末に更新する。博士論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開する。
- ⇒ 全教員の研究業績を9月末と3月末に researchimap に更新登録した。また、博士

論文は吉備国際大学学術機関リポジトリで公開した。なお、令和 4 年度に DOI (Digital Object Identifier) に登録して、リポジトリ掲載論文に DOI を付けることができた。

- (7) 地域志向研究の推進及び SDGs 関連研究の活性化を図る。
 - ⇒ 地域貢献教育研究活動助成金を 1 件、SDGs 教育研究活動助成金 1 件を採択した。
- (8) 順正学園内の研究活動交流を目的として順正学園学術研究交流会を開催する。
 - ⇒ 令和 5 年 3 月 9 日に令和 4 年度順正学園学術研究交流会を開催した。

4. 就職・進路指導

(1) 就職希望学生の就職率 100%

全学生の卒業後の進路希望を把握し、就職ガイダンスの実施、就職関連各所及び関連サイトとの連携等による情報提供や支援を行う。社会情勢や採用企業のニーズも把握すると共に、学生一人ひとりのニーズに応じた的確なサポートを行う。

また、キャリアサポートセンターでは、個別面談及び履歴書添削等の支援の充実を図ると共に、オンラインによる就職支援や面接練習も積極的に活用する。

⇒ 就職率 97.2%

進路希望については、ユニバーサルパスポートに学生が入力する期間を設定し、未入力の学生については、再度入力するようユニバーサルパスポートを通して周知し情報の把握に努め、キャリアサポートセンターに来室した学生で提出できていない学生に対して直接入力方法を説明した。

情報提供については、キャリア開発Ⅱの講義内で就職情報会社による登録会を実施し、学生の就職活動に役立つ合同説明会やイベントの情報はユニバーサルパスポートにおいて提供した。また、学内に設置しているキャリアサポートセンターの掲示板においてもポスター等にて周知した。個別面談、履歴書添削については、キャリアサポートセンター内の個人ブースにて対応を行い、対面での面接練習をはじめ、増加してきている Web 個別面接の練習にも対応した。

(2) 進路決定と主体的活動への支援

キャリア教育科目等の講義を通して、大学進学をの目的を再認識させ、キャリアプランや目標を明確にすることで就職及び進学への意欲を持たせる。低学年から参加できる就職ガイダンスやインターンシップへの参加も促す。

また、留学生や障害学生へのサポートを強化し、卒業後の進路について自己決定できるよう、幅広い情報提供や就職ガイダンス、個別指導を行う。

- ⇒ 1 年次の「キャリアデザインⅠ」において、「キャリアとは何か」、「キャリアをデザインするとはどういうことなのか」、キャリアデザインノートの意義や作成方法を説明し、個人の記録を卒業まで活用できるように進めた。インターンシップにおいては、企業等から届いた情報を該当学年全員にユニバーサルパスポートを通して配信してきたが、実際の参加状況は把握ができていない。留学生及び障害学生について

は、キャリアサポートセンター内にコーナーを設置し情報提供を行った。留学生に細かく情報が届くよう勧め、実際に来室してきた留学生の相談に対応した。

(3) 地域との連携による地元就職支援

大学が所在する地域の各団体等と連携し、地元事業所の情報および魅力を積極的に発信することで学生の地元就職への関心を高める。

- ⇒ 岡山県内の企業 10 社に来学していただき、業界研究及びインターンシップ（オープンカンパニー）の説明会の情報を提供した。業界や職種に関する知識を得て、さらに地元就職への関心を高められるように促したことにより、実際に来学いただいた企業のインターンシップに参加するなど就職活動に役立てることができた。また、学内においての単独説明会を開催し、地元への就職につなげたと同時に、学生の就職活動準備にもなった。

5. その他の事業

(1) コロナ禍における学生支援の継続・改善

①心身の健康を維持する為の支援、特に学生を孤立させない為の支援に取り組む。

キャンパス間において支援事例を共有し、さらに、支援対象の学生にオンラインで医療系スタッフがカウンセリングを実施するなど学生の健康に関する支援体制の強化を図る。

- ⇒ 学生を孤立させない為の取り組みとして、高梁キャンパスでは学友会が主体となり新入生を対象としたスポーツ大会を 5 月に開催し、8 月には全学生を対象とした納涼祭、12 月は同様にクリスマスイベントを開催した。また、岡山キャンパスにおいては、学科行事としての日帰り旅行や有志によるスポーツの活動を通じて学生の孤立を防ぐ取り組みを行っている。南あわじ志知キャンパスにおいてもコロナ禍で中止せざるを得なかった学部の行事である「さなぶり」などの各種行事を再開すると共に地域社会との活動を活発化させ学生を孤立させない仕組みを構築している。なお、メンタル面での支援を必要とする学生のためにオンラインで実施するカウンセリングの体制を構築していたが、今年度については対面でのカウンセリングで対応が出来た。

②新型コロナウイルスに感染した下宿生に対する食料品支援の継続。

- ⇒ 高梁キャンパスにおいては、コロナウイルスに感染した下宿学生約 40 名に食料支援を行った。岡山キャンパス並びに南あわじ志知キャンパスについては、教員、事務室スタッフが感染した学生と密に連絡を取り合うと共に学生間の互助による支援が功を奏し食料支援を希望する学生が居ない状況であった。

③活動自粛等により衰退傾向にある学友会・クラブ活動を回復させる方策を立てると共に、学生自身が主体的に取り組めるように学友会執行部、クラブ活動代表者

に対して研修を実施する。

- ⇒ 令和 4 年度も前年度に続き、団体結成時の人数下限並びに活動履歴の規則の緩和などの対応を継続し新規クラブの結成を容易にした。その結果として留学生が軽運動に取り組むクラブ並びにフィットネス施設を活動拠点とする筋力トレーニングに取り組むクラブを結成した。さらに、女子留学生が女子バレー部に入部希望届を提出するなどクラブ活動は活性化してきたと言える。また、学友会、体育部会、文化部会、額絵際実行委員会などの各団体において、コロナ禍により活動が停滞し各団体の慣習や規則などが正確に継承されず団体運営や行事開催に支障が出ている事を考慮し、高梁キャンパスにおいて学友会、体育部会、文化部会、学園祭実行委員を対象とした幹部研修会を実施した。

(2) 各キャンパスにおける学生・教職員を対象とした防災訓練、交通安全講習の実施

- ⇒ 大規模災害発生時の学生の安全確保を目的として、全キャンパスの学生を対象とするユニバーサルパスポートの安否確認機能の訓練を実施した。交通安全講習として、高梁キャンパスでは通学に自転車・オートバイを資料する学生を対象とした二輪車安全運転講習を実施すると共に、新入留学生を対象とした交通安全講習会を実施した。南あわじ志知キャンパスでは新入生オリエンテーションの際、淡路島における地震発生時の避難場所についての説明や交通安全講習会を実施した。岡山キャンパス及び南あわじ志知キャンパスで 11 月（24 日:岡山、25 日:南あわじ）に避難訓練を実施し、高梁キャンパスでは防災訓練の実施を令和 5 年 1 月 19 日に実施した。

I. 令和4年度教育方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度も継続して授業運営に大きな影響が出る事が予想される。可能な限り対面授業を実施しながらも、効果的な遠隔授業の在り方を模索し、学生への教育効果の充実に努めたい。

さらに、第2期中期目標・中期計画（令和元年度～令和4年度までの4年間）の最終年となり、全学科共通の目標である「学修成果の可視化」に取り組むと共に、大学のブランド力強化に向け、令和4年度より新たな取り組みにも着手している。その成果の積み上げと検証を行い、新たな中長期計画の足掛かりとしたい。

- (1) 遠隔授業の継続的な実施（コロナ禍以降含む）と授業の質保証に取り組む。
 - ⇒ 対面授業を重視しながらも、都市部や遠隔地の授業担当者については、協議の上、オンライン授業に取り組むことが出来た。ただし、質保証の観点での検証については課題も残るため、遠隔授業の在り方について今後さらに検討を行いたい。
- (2) 学修支援システムの効果的な利活用促進及び学修成果の可視化の実現に努める。
 - ⇒ ユニバーサルパスポートの「学修ポートフォリオ」及び「マイステップ」機能の活用に着手できた。この1年間の取り組みについて検証を行い、4年(6年)後の最終成果に向けた取り組み強化を加速させたい。
- (3) 学部・学科の社会的・学術的役割、育成すべき人材像、教育システムの特色・強みを再検討し、明確化する。
 - ⇒ 3つのポリシー等の検証を行うと共に、ブランドビジョンとして掲げた『4つのen』の実現に向け取り組みを開始できた。この取り組みを毎年度検証し、成果となる4年(6年)後を念頭に置きながら、取り組み方法等について改善する計画である。
- (4) 基礎学力の向上や遠隔授業の充実に資する e-learning システムの強化、及び、専門的授業科目との連携を明確化した初年次教育の見直しを図る。
 - ⇒ 初年次教育の重点項目に「国語力の強化」を掲げ、e-learning システム「すらら」の実施検証に努めると共に、大学共通基礎科目の見直しとしてデータサイエンス教育や学部学科横断科目となる医療・福祉連携講座、日向国地域体験学習を開講した。上記(3)同様に検証・改善を計画的に行う予定である。
- (5) 各種資格試験・採用試験の100%合格をめざして、その準備のための課外学習を組織化するとともに、大学生活の充実に資するため学部・学科・学年を超えた学生相互の交流活動を推進する。
 - ⇒ 全学部、全学年を対象に公務員試験対策講座を実施予定である。本学卒業生にも講師として参加いただき、公務員としてのやりがいや、現在の業務など、パネ

- ルディスカッションを計画している。具体的な試験対策として、専門の講師による録画面接のポイント、ケーススタディ対策などのプログラムを準備している。
- (6) 退学者・留年者ゼロをめざして、学習が遅れがちな学生、学習意欲を喪失しつつある学生、進路や対人関係等で悩んでいる学生への相談窓口体制を整備する。
- ⇒ 2 回連続欠席者データの提供及び適切なチューター等学科対応について、教職員が連携した取り組みを強化し、3 年連続で退学者数を減少させることができた。
(R4 年度 19 名、R3 年度 24 名、R2 年度 41 名)

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 新型コロナウイルス感染症の対策として、遠隔授業の在り方（実施方法）について継続検討を行い、より効果的な体制確保に努める。
- また、中途退学防止に係る取り組みとして、その課題の根幹となるのが学力不足による就学意欲の低下にあると考えており、全学的に入学後のリメディアル教育の充実に引き続き取り組む計画である。昨年度から全新入生に初年次テキストを配布し、大学生としての学修の動機づけを行う取り組みを行っている。また、e-learning システム等を活用することによりレポートを書くための国語力向上を目指し、専門書を読む力をつけさせる。さらには、出欠管理システムを活用し、授業を欠席しがちな学生を早期に把握することにより、チューター及び学科の教員と連携して退学防止に努める。
- ⇒ 初年次教育としての更なる取り組みとして、データセキュリティに係わる教育の充実に努め、教育内容の検証を情報教育センターが中心となり開始することが出来た。令和 5 年度に向けた取り組み計画にも着手している。また、大学全体で掲げている国語力向上に向けた取り組みとして、入学時・前期末・後期末に実施の国語統一試験結果並びに取り組みの成果についても検証を行い、令和 5 年度に向けた運用改善に取り組んでいる。
- ※その他の取り組みは前段のとおり。
- (2) 昨年度の国家試験において、新卒者の合格率が全国平均以下となった資格が 11 種中 4 種となり、改善を要する。課題の検証を行い、対策を講じ、全員合格を目指す。また、卒業年次学生の卒業率の向上に取り組む、大学のブランド力の一つとして、在学生のみならず、既卒者への国家試験合格に向けての指導も継続して行った。
- ⇒ 国家試験対策においては、各学部・学科ともに 100 %合格をめざして、成績不良学生への個別指導はもちろん、専門業者による学外講座を開催するなど、実技対策として勉強会等を開くなど対策強化を行ったが、11 種中 3 種（愛玩動物看護師、介護福祉士、臨床検査技師）でしか上回ることが出来なかった。全学的な課題と

して情報を共有し、対策強化を図ることが急務である。

- (3) 大学改革推進委員会が中心となり、IR推進委員会および学園 IR推進室とも連携して学生の入学動機や学修状況、学生生活などを調査した。その結果をもとに、教育の質の向上と授業の質保証に取り組み、学修成果の可視化を目指した。さらに、教育の充実と学生満足度の向上を図るため、全学的なFD・SD研修会を実施した。
- ⇒ 学内での分析や実施に加え、高等教育コンソーシアム宮崎によるFD研修、SD研修検討ワーキンググループ会議にも積極的に参加し、本学単独では実施が難しい、幅広い内容での各種研修が実施出来るよう関係機関と協議を進めた。
- (4) 大学は「楽しい学生生活」の場ではあるが、反面「危険がいっぱい」の場でもある。社会的なルールを守り、他人を思いやり、学生として正しく行動できる意識を涵養できるよう理解しやすい冊子を作成して学生に配布することで「危険を回避」して、問題が生じた際にも適切に対応できるようにする。また、南海トラフにより予想される巨大地震等の災害や火災事案等の有事に備えて、防災訓練等を通じて基本的な防災行動力を身に付け、地震・火災発生時に迅速かつ冷静沈着な対応が取れるよう防災力向上を図る。
- ⇒ 「詐欺・悪質商法からの回避」、「便利さと危険が隣り合わせである SNS の適切な利用」、「ハラスメントの加害者・被害者にならないためには」等々の内容で構成されている『学生生活スタートブック』並びに『18歳で成人になるってどんなこと?』を配布し、学生生活に潜む【危険なこと】について周知するとともに注意喚起を行なった。また、12月1日(木)には実践的な消防・防災・避難行動について、より一層の理解を深めることを目的として全学をあげての「防災訓練」を実施した。避難行動や危機管理についての要点をまとめた【大地震マニュアル】も配布しており、防災に対してさらに高い意識付けを図った。

2. 通信教育関係

- (1) Webを利用した広報活動及び地域に特化した広報活動を行い学生募集に努める。
- ⇒ Webを利用した媒体に新たに参画し、12月中旬より資料請求の申込みを始め、オンライン化に伴い、募集範囲を広げ広報活動を行った。
- (2) 社会福祉士国家試験対策の充実を図り、より学生に効果的な策を講じ、全国平均以上の合格率を目指す。
- ⇒ 社会福祉士国家試験対策に特化した業者に講座を委託し9月に2日間実施した。
- また講師を変更して12月下旬に2日間し前年度比では合格率はアップした。
- (3) 授業アンケートを実施し、集計結果を通して学生の満足度の向上を目指し、教育内容や通信事務方法の改善に努めるとともに、引き続き学習相談会を開催し在学生のサポートを向上させる。
- ⇒ オンラインにて学生アンケートを実施し、担当教員へフィードバックした。学習相談会はオンラインにて学生個人の要望に応える形で随時開催した。

3. 研究関係

教育研究に寄与するため次の事業を推進していく。

(1) 科学研究費補助金等の申請について

文部科学省・日本学術振興会の科学研究費をはじめ、積極的に各府省・財団等の研究助成等の公募を配信し、外部資金の獲得を奨励する。

本年度の科学研究費助成事業は新規：4件、継続：15件（期間延長：7件含む）であるが、採択件数は減少している。今年度は研究推進部門と連携し、科研費の採択件数の向上を目指し取り組んでいく。

科研費助成事業件数(期間延長を含む) (単位：件)

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
継続	16	17	19	16	15
新規	6	6	2	4	4
合計	22	23	21	20	19

⇒ 令和5年度の科学研究費助成事業に向けた申請件数は36件で、令和4年度の申請件数41件より減少しているが、研究推進部門会議を中心に申請書の書き方の講習会や採択に向けたアドバイスの実施などを実施することで、採択率の向上に努めた。その甲斐もあり、令和5年の新規採択数は6件と増加した。

(2) 個人研究費について

個人研究費については、従来通りの研究業績に応じた配分方法を踏襲し、文部科学省の科学研究費の応募意欲の向上を目指す。また、他の競争的研究費についても奨励を図り、配分方法の見直しを検討した。

(3) 学内共同研究費について

学長裁量の一環として、学内の研究活動の推進と学内の教育改革や学修環境の改善に取り組むことを目的とし、研究費助成として「研究経費助成」と「地域創生事業経費助成」を、教育改革助成として「教育の質的転換」を設け、それぞれの研究活動の推進を図っている。具体的には、「研究経費助成」は教員の研究活動の推進を図り、「地域創生事業経費助成」は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動を、「教育の質的転換」は教育方法や学修環境の改善を目的としている。なお、申請者に対しては公平に審査、配分をおこない、研究活動並びに地域貢献活動、教育の質の向上を推進する。

また、日本高等教育評価機構から参考意見として「研究に関する自己点検・評価を全学的な取組みに発展させていく努力が望まれる。」と指摘を受けていることから、昨年度から各経費助成の採択者は、自己点検・自己評価委員会総会で成果の発表を行い、教員間の活発な討論や情報交換を行っている。このことにより、次年度の科研費申請者数の増や研究成果の地域社会への積極的な活用（還元）を図っている。

⇒ 令和4年度については、研究推進部門会議を中心に協議・選定を行った結果、研究経費助成が8件で5,990,000円、地域創生事業経費助成が7件で1,996,630円の採択となり、応募教員に配分された。

(4) 外部資金導入の促進について

補助事業、受託事業、寄付事業など、外部からの助成金等を積極的に受け入れ、教育研究を推進するとともに、それを通じて社会貢献に寄与する。

⇒ 教員個々での外部資金獲得を奨励し注力した結果、令和3年度の外部資金総額約3300万円に対し、令和4年度の外部資金総額は、約3530万円で昨年比230万円増となった。

4. 就職・進路指導計画

(1) 就職希望者の就職率100%を目指すとともに、数値目標だけでなく個人指導に重きを置いた支援を通して、学生自身が自己の能力を見出し、向上を目指すことで、一人ひとりが、より満足度の高い進路選択ができるよう、良質のキャリアサポートを実施する。

⇒ 常に学生との対面による個別面談を行うことに最も重点を置き、進路相談、履歴書・エントリーシートや小論文の添削指導、面接練習などを地元ハローワーク・ヤングJOBサポートみやざき・マイナビ・M3キャリアと連携して支援に取り組んでいる。また、就活メイク講座やWEB面接対策講座、マナー講座など就職に直結する各種の講座を実施している。最終の就職率は98.4%であった。

就職希望者の就職率100%を目指すとともに、数値目標だけでなく個人指導に重きを置いた支援を通して、学生自身が自己の能力を見出し、向上を目指すことで、一人ひとりが、より満足度の高い進路選択ができるよう、良質のキャリアサポートを実施する。

(2) エンrollmentマネジメントの一環として、全学的にキャリア教育に取り組むことで、個々が目指す資格の魅力や、有資格者としての将来像を鮮明に描かせ、就労意欲の向上を図ると同時に、各学科のキャリアサポート委員会を中心とする全教員と綿密に連携することで、卒業者に占める就職希望者の割合90%を目指す。

⇒ コロナ禍において就職進学における不安を気軽に相談できる窓口として、キャリアサポートセンター専用アカウントで、LINEを開設し、学生の多くの不安に対し迅速に対応できる環境を整備している。また、定期的に求人情報を学科のキャリアサポート委員会を通して積極的に学生に周知している。さらに、MOS講座、SPI対策講座などのキャリア支援講座を学部、学年問わず開催している。

卒業者に占める就職希望者の割合は80%であった。

(3) 県内の各団体等と連携し、「Work Caféのべおか」などの催しを積極的に企画し、地元企業の情報および魅力を発信し、学生の地元就職への関心を高めることで、宮崎県内就職率40%以上を目指す。

また、近年、さまざまな障がいを持つ学生が増加傾向にあるが、障がいは一つの

個性と捉え、常に傾聴の姿勢で学生へ接し、個々に適した最善のキャリアデザインを描かせ、専門機関と協同のうえ就労可能である事業所を開拓する。

⇒ Work Café のべおかを対面形式にて開催し、低学年時より延岡の魅力を学生に伝え、長期ビジョンで宮崎県内の就職率向上を図っている。また、延岡地域雇用促進協議会及び日向市地域雇用創造協議会並びに宮崎県福祉人材センターと連携を図り、宮崎県内への就職率の向上に努めている。さらに、宮崎県内の公務員情報を広く学生に周知することで、多くの学生が公務員試験を受験している。また、障がい者枠での受験に対しても、ヤング JOB サポートみやざきと連携し支援を実施している。加えて、薬学科では宮崎県内事業所限定の5年生対象の就職面談会を実施している。宮崎県内就職率は31.8%であった。

(4) 卒業生は大学の大きな財産と捉え、この財産を広く公開することにより、就職の視点から入学生確保を目的とした動画・静止画・インタビュー記事を織り交ぜたホームページをキャリアサポートセンター内のホームページへ開設する。また、学内で開催する各種のイベントを広く公開することで、キャリアサポートセンター視点での入学者確保に寄与する。

⇒ 学内で開催した各種のイベントは、内容と共に、写真を大学ホームページに掲載し、キャリアサポートセンター視点での情報の公開に取り組んでいる。

5. その他の事業

(1) 「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」等で、求められている事項について学内整備を行う。また、「修学支援新制度（教育費負担軽減）の更新申請」を確実に行うことで、コロナ禍の貧困学生の救済・支援に努める。

⇒ 「私立大学等改革総合支援事業」、「教育の質に係る客観的指標調査票」及び「修学支援新制度（教育費負担軽減）の更新申請」について、予定どおり申請を行ったが、「私立大学等改革総合支援事業」については、残念ながら不採択の結果となった。

(2) 地域との連携事業を推進する。

延岡市との連携により、受託事業である「発達支援システム事業促進支援業務」や「定住自立圏フィールド調査事業」を今年度も引き続き実施する。

⇒ 令和4年度も延岡市との連携事業である「発達支援システム事業促進支援業務」や「定住自立圏フィールド調査事業」等の地域連携事業を受託し、地域に開かれた大学として、連携強化に努めた。

(3) 宮崎県人権啓発推進協議会の委託を受けて、令和4年度も人権啓発活動協働推進事業を実施する。（3年計画の3年目）

⇒ 2022年11月12日(土)に「生活のしづらさを抱える人の人権」をテーマに基調講演「ヤングケアラー ～現状の課題と展望～」やパネルディスカッションなどを実施した。

- (4) 延岡市教育委員会との共催である「のべおか子どもセンター」を開催し、親子のコミュニケーションづくりや家庭及び地域の子育て機能に貢献していく。
⇒ 令和4年度もコロナ禍に配慮しつつ、「のべおか子どもセンター」を延岡市教育委員会との共催で開催し、本学教員6名による子育て講話や体験活動などを実施した。
- (5) 新型コロナウイルスの更なる感染拡大が懸念されている状況ではあるが、延岡市から依頼を受けて実施している「のべおか市民大学院」を今年度も年間13回(講義は11回)と本学が開催する公開講座6回を開催する予定である。
なお、「のべおか市民大学院」の講座では、今年度よりコロナ禍の状況に応じて、オンライン等での実施(配信)ができるように準備と検討を進めた。
- (6) 本学附属図書館では、平成28年度より、延岡市立図書館と認知症関連の書籍を主体とした共同企画展示をおこなっている。例年は「認知症」関連のテーマで開催し、好評を得ている。今年度も引き続き大学図書館と市立図書館の連携強化を図り、本学の教育・研究に対する地域住民の認知度を高めるよう取り組んでいく。また、ラーニングコモンズの利活用を促進し、アクティブラーニングと連動させ、学生が共に学び成長できる場としての附属図書館の積極的な活用を推進していく。
⇒ 延岡市立図書館との共同企画展示を今年度より年1回の開催として9月に「認知症と食事」と題し開催した。
図書館内のラーニングコモンズの活用についてはゼミ単位での利用説明等を行って、積極的な活用を促した。
- (7) 令和5年2月4日・5日に開催された「Out of KidZania in のべおか」に動物生命薬科学科(愛玩動物看護師)の体験プログラムで今年も参加した。動物を扱う関係上、各日定員10名しか受入出来なかったが、非常に人気で参加者の満足度も高かった。
また、昨年度参加した「Out of KidZania in のべおか」が非常に好評だったことから、今年度より本学独自の「お仕事体験プログラム」も開催した。
令和4年11月23日に開催され、体験プログラムを実施した5学科(動物生命薬科学科以外)合計で88名の参加者(募集定員を超過した為、抽選を実施)があり、非常に人気で参加者の満足度も高かった。

順正高等看護福祉専門学校

I. 令和4年度教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する。

1. 中途退学者0名、**全員卒業**をめざす
2. 最終学年全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める
3. 学生の自律・自立を促す教育実践を行う
4. 講義・演習・実習へと進化する学習体系に適応できるよう、種々の工夫を学生視線で構築する
5. 下記のプロジェクトの成果を出す
 - (1) 国試対策
 - (2) 教員研修

II. 各事業の概要

1. 教育関係

- (1) 基礎学力強化を図るため、教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う。

<看護学科>

- 1) 全教員で国家試験対策に取り組み、受験者の100%合格を目指す。

①指導内容の統一

講義・実習での指導内容の精選と指導の質的レベルを一定にする

②教員一人ひとりが責任と役割を自覚し指導する

学生の到達度と課題を明確にするとともに、計画に則り取り組んでいく。
学生個々の成果が出るように、学生指導を行う。

- ⇒ 臨地実習が終了し、国家試験対策授業や模擬試験を計画的に導入し、学生の状況に合わせた学習方法などを指導するために、教員全員が3年生を数人担当し個別指導を取り入れなら学力強化に取り組むことができた。
国試結果は、19人中16人合格(84.2%)

- 2) シラバス内容充足を図るとともに、新国家試験出題基準を参考にしながら科目間の重複等を確認し教育内容を検討する。

⇒ シラバス内容を確認しながら実践した。

<介護学科>

国家試験の100%合格を目指し、学生個々の学習進度に合わせた丁寧な指導を行う。

① 学生理解

定期的な模擬試験、ミニテスト、学生面談を実施し学習進度の把握に努め、個々の課題を明確にする。

⇒ 模擬試験、国家試験対策を計画的に取り入れ、学生の進捗度に合わせた個別指導を併用しながら、全体的な学力強化に取り組んだ。

国試結果は、9人中3人合格（33.3%）

② 指導内容の統一

順正夢ノートを活用し、学生の学習成果が可視化できるようにする。各担任が分析し、指導内容が統一できるようにする。

⇒ 担任が毎月15日の面接で順正夢ノートを確認した。必要な指導内容がある場合は学科教員全員で共有し対応した。

③教育内容の充実

実習に柱を置き、実践力を身につけるために、各科目で連動した学習ができるように教育内容を検討する。

⇒ 実習で学んだ介護技術を各授業科目の内容に結びつけることができた。

(2) 学外講師の意見や助言、示唆を尊重する。

<看護学科>

授業中の学生の状況を把握するために、授業開始前後に担任、教科担当者などが学外講師と情報交換し教育指導に活かしていく。

⇒ 昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い講師連絡会議は中止した。そのため、講義前後に学外講師と本校教員が情報共有を行い、学生の状況把握をした。

<介護学科>

講義前後の時間に外部講師と情報交換を行い、学生一人ひとりの状況を把握し、効果的な学習が行えるように連携を強化する。

⇒ 学外講師との連携を図るために、講義前後の時間に情報交換を行った。学生一人ひとりの状況を確認し、効果的な学習を行った。

(3) 保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る。

保護者とチューター間の関係を構築し学生支援に当たる。日頃から、学生の状況を把握し必要に応じて保護者を交えた面談を実施する。

⇒ 学業成績、出欠状況や学内で気になる学生が出たので、保護者と連絡を取りながら学生指導に当たることができた。

- (4) 学生には丁寧な説明を心掛け納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を築く。
⇒ 教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進めることに留意した。状況によっては、チューターに加えて関係教員（実習担当など）と学生と話し合った。
- (5) 低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に企画・実行するとともに、学年ごとの学力向上に向け取り組む。

<看護学科>

模擬試験を有効活用し、合格圏に入れるよう成績状況をふまえ学習をサポートする。実施した模擬試験の見直しを行い、確実に知識が身につくよう指導する。臨地実習での学びが、国家試験に直結することを意識させ、実習前・後の時間で新出題基準や過去問を活用した試験を実施し、学力を強化する。

また、実習終了後、小テストを行い知識の定着を図る。

- ⇒ 新出題基準の変更内容について意識付けを行い、授業や模擬試験後にも確認し、新出題傾向に慣れるようにした。

臨地実習終了後は、2日に1回、国家試験対策授業の内容に関連した復習問題に取り組んできた。また、正答率が80%未満の問題は授業担当者が解説の追加をした。

10月より、2～3名の学生に対して、教員1人が個別に担任と情報交換しながら学習支援を行った

模擬試験後は、期日を決めて模試直しを行い、知識定着を図った。

10月19日から国家試験対策授業を開始し、定期的に業者の模擬試験、また、国家試験ガイダンスも取り入れながら、数値目標を掲げ、合格に向けて取り組んだ。

<介護学科>

定期的に模擬試験を実施し学生の学力を分析した上で、個別の学習計画を立て、学生が計画的に学習できる体制をつくる。国家試験に対応できるように計画的な日本語学習を立て、実践する。

- ⇒ 模擬試験、朝テストをもとに担当教員を決め、学生が個別の学習計画を立て実施できるように学習支援をした。年初の日本語強化学習計画にそって学生も積極的に参加することができた。

2. 研究関係

- (1) 教育評価を行い、学会等への投稿に取り組む。
- (2) 学会、研修に各自参加し、看護・介護教員としての教育力・指導力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する。
- ⇒ 各教員が、研修会（コロナにより、リモート視聴が中心）に参加し自己研鑽に努める

とともに、教育に還元できるよう取り組んできた。

(3) 学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ。

⇒ 看護学科・介護学科共通で、学生の理解と関わり、教員自身のストレスマネジメント、事例検討などの勉強会を行った。

3. 就職・進路指導計画

看護学科・介護福祉学科共に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する。

<看護学科>

進路ガイダンスを3月から5月にかけて実施する。進路希望調査（第三希望まで）を行い具体的な就職指導を行う。

⇒ 3月末時点で内定率100%（なお卒業生19人の内、3人は就職意思なし）

<介護学科>

ハローワークと連携を図り、幅広い就職活動が行えるようにする。

⇒ 1月の時点で卒業生全員（9人）が内定した。

4. その他の事業

(1) 校舎及び設備の老朽化に対処し、教具・校具とその附属品の破損等をチェックする。

⇒ 壊れた備品類は教育活動に支障を来さないように修理した。

(2) 社会貢献活動として、介護職者に向けた研修会（県補助金を活用）を実施する。

⇒ 介護セミナーを開催した

日時：10月28日（金）14:00-15:30

会場：第一セントラルビル（岡山市）

講師：福嶋啓祐氏他

演題：「在宅医療・介護・福祉のICT連携の現状と課題」

九州保健福祉大学総合医療専門学校

I. 令和4年度教育方針

【学校全体の目標】

1. 今まで同様、学修成果を目に見える形にし、学修者本位の教育を実践することで、看護師国家試験合格率及び入学定員充足率100%を維持する。
2. 広報戦略として組織的にパンフレットやホームページの再構成に取り組み、学科の魅力ある教育活動の発信に努める。
3. 退学者ゼロ及び県内就職率60%以上を目指す。
4. 新たな看護師養成カリキュラム(令和4年4月開始)に対応した教育の質向上を目指す。
5. 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対する安全管理を徹底する。可能な限り対面授業と臨地実習での体験をもとに看護の理論と実践を結び付け、臨地における看護実践力を身につけ、卒業時の不安を最小限にとどめる。やむを得ず、学内実習となった場合でも学生の資質・能力に応じた教育方法の改善に努める。

II. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 看護学科

【今年度の目標】

1. 看護師国家試験は協力体制を整え全学年で対策を講じ合格率100%を維持する。
2. 本校の魅力や強みを発信し入学定員充足率100%を維持する。
3. 学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し成績不振による退学者ゼロを目指す。
4. 県内就職率60%を目指す。
5. 新カリキュラムと連動した講義、演習、実習を実践し学生の知識・技術の向上を目指す。

【具体的な手立て】

1. 看護師国家試験は協力体制を整え全学年で対策を講じ合格率100%を維持する。
 - 1) 学生が段階的、主体的に単位が習得できるよう各学年運営の指導計画を立案し実践する。
 - 2) 教員各自が国家試験の出題傾向を踏まえた講義、実習指導を実践する。
 - 3) 国家試験対策や臨地実習において学生が思考し評価修正していく力を引き出し、知識の定着を図る。
 - 4) 学生の学力、モチベーションを見極め、時宜を得た対策を講じる。
- ⇒ 学年ごとに指導案を立案し、教員一人一人が国家試験を考慮した講義、実習指導を実践した。新型コロナウイルス感染症対応に伴い、臨地実習を短縮せざるを得ない状況が続いた

が、効果的に学べるよう内容を精選し、学内実習を併用しながら実施した。国家試験対策としては計画的に対策を講じボトムアップに力を注いだ結果、最下位の学生もボーダーより9点高く余裕をもって全員合格することができ100%合格を維持できた

2. 本校の魅力や強みを発信し入学定員充足率100%を維持する。

- 1) 事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントに積極的に参加し高校生や保護者、実習施設、高校に本校の特色や魅力をPRする。
- 2) 地域の中で求められる人材を送り出すことで本校の社会的評価や信頼度を高め、入学希望者の増加に繋げていく。

⇒ 本年度の学校見学会は感染拡大を考慮し人数制限を設け予約制ではあったが、予定通り3回実施することができた。予約外の生徒及び保護者には9月の土曜日を中心に見学会を実施するなど随時対応した。また、事務室と連携し学校紹介に繋がる看護協会のイベントや高校説明会にも参加し、入学定員の確保に努め60人の入学定員を確保することができた。

3. 学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し成績不振による退学者ゼロを目指す。

- 1) 教員間で学生の必要な情報交換をすることにより学生の状況を把握し学生の心身の変化を見逃さず対応し、必要時、保護者を交えて面談し対策を講じる。
- 2) 看護に魅力を感じることができるよう、また看護師の資格取得に意欲が高まるように講義や実習を通し関わる。
- 3) 入学後の学修の不安や成績不振を改善するため、入学前教育を継続し入学後の指導に活かす。
- 4) 感染状況を考慮しつつ学年を越え学生同士が交流できる機会を設け、学生生活のモチベーションの向上に繋げる。

⇒ 感染拡大状況を考慮しながら学年を超えた学習会や交流会を実施したことで学生生活や学習面でのモチベーションの向上に繋がったと考える。

また、教員間で学生指導に必要な情報交換を行うことで学生の状況を把握し、学年担任、チューター及び実習指導教員がきめ細かく対応した。成績やメンタル面、生活面など気になる学生には適宜本人との面談・保護者への連絡および三者面談を実施し早期の問題解決に努めてきた。結果、成績不振による退学者はいなかったものの進路変更による退学者が12名であった。

4. 県内就職率60%を目指す。

- 1) 県内に就職した卒業生の状況や病院からの資料は優先的に掲示、伝達する。
- 2) 県内に就職した卒業生が来校した際は、在校生に病院や看護の魅力を伝える機会を設ける。
- 3) 臨地実習の機会を活用し、看護部長・病棟師長・指導者などから看護の魅力や就職に繋がる病院情報を得る機会を積極的に設ける。
- 4) 宮崎県看護師等修学資金、県内の病院奨学金制度、宮崎大学附属病院推薦入試枠など

の活用について学生状況を見極めつつ勧めていく。

⇒ 県内の病院、施設の就職情報をタイムリーに掲示し、卒業生が来校した際は、在學生に就職状況や看護師の魅力などについて話してもらう機会を設けた。臨地実習の機会を活用し、看護部長・病棟師長・指導者などから看護の魅力や就職に繋がる病院情報を得る機会を積極的に設けた。結果、進学者を除いた県内への就職率は68.8%であった。

5. 新カリキュラムと連動した講義、演習、実習を实践し学生の知識・技術の向上を目指す。

- 1) 教育内容の精選・充実を図り、効果的に学ぶことができ看護の魅力を感じられるカリキュラムを实践する。
- 2) 事務局と連携し新カリキュラムに対応した学内の学修環境を整える。
- 3) 新カリキュラムと旧カリキュラムが並行するため単位取得に不利益を被らないように体制を整える。

⇒ 今年の1年生から新カリキュラムが運用され、2, 3年生は旧カリキュラムで進行しているが、単位修得時に学生が不利益を被らないように体制を整えハード面も含め問題なく実施できた。旧カリキュラムではA・Bそれぞれクラスごとに講義を行っているが、新カリキュラムでは基礎看護技術（実技）及び実習を除く科目についてはA・Bクラス合同での一回の一斉講義で行われるようになったことで教員の負担が軽減された。

2. 事務関係

(1) 事務室

【今年度の目標】

1. 適正な入学定員充足率を維持する。
2. 入学志願者数を135名以上にする。
3. 退学者数0を目指す。
4. 適正な予算執行で経費削減に努める。
5. 国家試験合格率100%を維持する。

【具体的な手だて】

1. 適正な入学定員充足率を維持する。

各入試の出願状況を分析しながら入学定員100%を維持する。

⇒ 入学定員60名に対し入学者は60名で充足率100.0%であった。

2. 入学志願者数を135名以上にする。

1) 学校ホームページ等ネットを最大限に活用した広報活動をする。

2) 新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで学校見学会及び個別見学を実施する。

3) 高校訪問が困難な時期は、文書や「ちらし」等を郵送する等して本校の周知を図る。
高校訪問が可能であれば、タイミングを考慮した効果的な訪問を実施する。

- ⇒ ホームページの新着情報をタイムリーに更新して情報提供を行った。
学校見学会については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から1回の定員を40名として事前予約制で計画どおり3回実施したが、締め切り後の問い合わせが多かったため、9月に土曜見学会を3回実施した。
高校訪問についてもタイミングを見ながら実施し、志願者確保に努めたが、結果として前年比21名減の103名であった。
3. 退学者数0を目指す。
- 1) 問題を抱える学生の情報を教員と共有し対策に活かす。
 - 2) 学生及び保護者との面談の更なる充実を図る。
 - 3) 教学面以外で問題がある場合、事務職員との面談の実施に努める。
- ⇒ 学科の教員と連携して面談時に参加して退学防止に努めたが、結果的に進路変更等で退学者数は前年比1名増の12名となった。
4. 適正な予算執行で経費削減に努める。
- 1) 費用対効果を見極めながら適正な予算執行に努める。
 - 2) 教職員の経費削減意識の醸成のため、毎月の教職員会議で節電の進捗や予算の執行状況を報告する。
 - 3) 緊急度、金額等様々な条件を精査・検討し、計画的に予算を執行する。
- ⇒ 9月の台風14号による被災で修繕費が増加した。また、コロナ禍で学内実習への変更や昼食場所の分散により空調や照明の使用率が上がり、大幅な経費削減は難しかったが、教職員会議で毎月使用量を報告するとともに節電を呼びかけた結果、電気使用量は最終的に対前年比96.7%と削減できた。
5. 国家試験合格率100%を維持する。
- 1) 学科と情報を共有し、学修環境やメンタル面でのサポートを行う。
- ⇒ 学科の教員と協力して国家試験対策を支援することによって合格率100%を達成した。

